

研究だより

令和元年 6月12日(水)
東久留米市立第十小学校
研究部

今年度の校内研究について

本校では、今年度も「算数の力を向上させる」ことをテーマとし、校内研究に取り組んでいくことになりました。昨年度より一歩進んで、「思考力を高める」ことを大テーマとし、研究主題を「既習事項を活用し、筋道立てて考え、表現できる児童の育成」としました。

6月5日(水)に、研究主任の上原主任教諭が5の2の児童とともに「小数のわり算」の単元で研究授業をしました。手だてとして「既習事項を確認し、本時で考えることを明確にする」「考えたり伝えたりする際に、図や表を活用させる」「ふり返りで、より良い考え方の価値付けをする」ことを意識して取り組んだ授業でした。



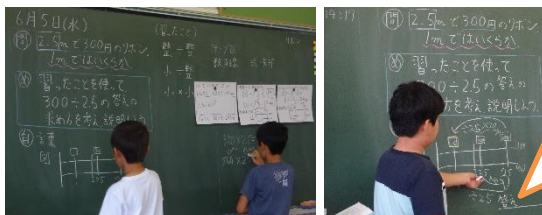
授業の導入では、テープを用いて前時の「1mのねだんを求めるときに『わり算になる』ことを確認しました。

また、数直線をかこうとしてうまくいかない児童を途中で集めて、小数のかけ算のときにどうしたかを思い出せるように支援しました。



自分の考えをもつために、途中で立ち、ノートを見合うことで参考にする「みつばちタイム」を取りました。迷っている子は糸口を見つけ、考えが浮かんだ子もさらに分かりやすい説明をする意欲をもちました。

めあての「考えを説明する」を達成するために、途中まででも、ペアの児童に自分の考えを伝えようと頑張る姿が多く見られました。



意見の発表については、推薦発表や立候補を取り入れました。小数交じりの式を計算のきまりを使って整数にしたり、数直線をかいたりする考えが黒板に登場しました。黒板の数直線を使って、別の児童が説明する、「バトンタッチ説明」も取り入れています。

講師の先生からは、正答の児童が説明するのはもちろん、途中までできた児童や、誤答の児童の考えを聞くようにしていくことについてお話いただきました。誤答のおかげで考えが深まる、という流れを積み重ね、「間違いをおそれず、考えを伝え合い、みんなでより良い考え方を獲得する」雰囲気をつくることを目指していきます。

今後の校内研究 研究授業の予定

今年度も低・中・高学年で研究授業を実施します。

9月18日(水)に5年生(習熟度3展開)、10月30日(水)に1年生(1の2)、11月6日(水)に4年生(習熟度2展開)の予定です。

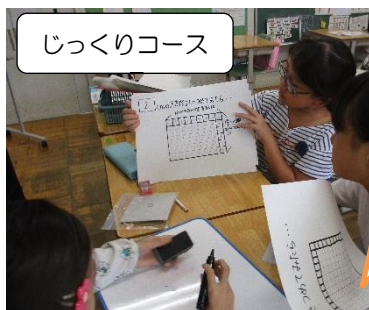
☆例年、保護者の皆様の参観もよびかけております。ご都合がつく方は、よろしく申し上げます。☆

研究だより

令和元年 9月26日(木)
東久留米市立第十小学校
研究部

研究授業 5年算数「偶数と奇数、倍数と約数」

9月18日(水)に、5年生の研究授業を行いました。算数「偶数と奇数、倍数と約数」の単元です。本時では、長方形の枠の中に合同な正方形をしきつめていく問題を通して、「公約数」についての理解を深めることをねらいとしました。チャレンジ・しっかり・じっくりの3コースに分かれて習熟度別の授業が行われました。研究主題である「既習事項を活用し、筋道立てて考え、表現することのできる児童の育成」を目指すために、普段の授業から、「問題を小分けに提示し、場面をつかんでから、何を求めるかを共通理解すること」「分からない時には、交流を通して考えるきっかけをつくること」「自分の考えが伝わるように書くこと」「友達の書いた資料をもとに、その意図を読み取ること」などを取り入れてきました。



じっくりコース

問題に対して、自分の考えに近い説明用のシートを選び、正方形をしきつめる様子を図にかいて友達に説明しました。しきつめられた、ということが図で実感でき、「わりきれぬ数」に注目すればよいことに気付くことができました。



チャレンジコース



しっかりコース

ノートを見合せて、同じような考えだった子とグループを作り、説明のための打ち合わせをしました。表を使って考えて、前回までの「公倍数」を求めてしまった子もいましたが、他の発表を聞いて、「こういう場面では、倍数の考えではなく、わるかどうかを考えればよい」という振り返りがありました。

自力解決の後、ミニホワイトボードに発表用の資料を作成しました。黒板に貼られたボードを見て、他の子が、その考え方を説明・発表しました。様々な表現に共通する、「両方をわりきれぬ数」について理解できました。

講師の先生からは、つまずきを生かした授業展開についてアドバイスをいただきました。間違ってしまったとして、「どうしてそう考えてしまったのか」ということに共感し、次からはどうすればよいかを全体で考える流れも検討してよいのでは、というお話でした。そうすれば、その間違いは「学習を深めるきっかけ」となり、周囲の児童は、正答にたどりつく着眼点や考え方について説明したり教えたりすることで、「より高い学習効果を得られる」とのことでした。そのためにも、誤答をおそれない、むしろ良い機会と考える雰囲気づくりを意識して指導にあたっていきたいと考えています。

今後の校内研究 研究授業の予定

次回は、10月30日(水)に1年生(1の2)が研究授業を行います。

その次は、11月6日(水)に4年生(習熟度2展開)で研究授業を行います。

☆例年、保護者の皆様の参観もよびかけております。ご都合がつく方は、ぜひご来校ください。☆

研究だより

令和元年11月1日(金)

東久留米市立第十小学校

研究部

研究授業 1年算数「どちらがひろい」

10月30日(水)に、1年2組で研究授業を行いました。算数「どちらがひろい」の単元です。本時のねらいは、「任意単位で面積を比べることができる」です。

研究授業では、正方形とちょうどその2倍の広さの長方形のタイルを使って、「勝ったら長方形のタイル、負けたら正方形のタイルをしきつめていく。最終的に広い方が勝ち。」というルールでじゃんけんゲームをしました。

前時に正方形だけのしきつめのゲームをしているので、子供たちは最初「タイルの数を数えればいい!」と考えましたが、本時ではタイルの広さがちがいます。「タイルの数を数えたら広さは同じになるはずだけど、こっちの方が広い気がする。どうしてだろう・・・」と考えている二人組があったり、「こっち(長方形のタイル)は、これ(正方形)の2つ分だから2まいと数えればいい。」ということに気付く子がいたりしました。

クラス全体で考えていく中で、自分の考えを友達に話したり、友達の考えを聞いたりしながら、少しずつみんなが「正方形のタイルを1つ分と考えると、長方形のタイルはその2つ分になるので、正方形のタイルを基に数えていくと、広さが比べられる」ということに気付いていきました。

最初は「よく分からない。」と言っていた子も、授業を通して「ひろさのくらべかたが分かった」と言えるようになり、最後の練習問題にも自信をもって取り組んでいました。

子供たちがゲームのやり方をしっかりと理解できるように、黒板の前で見本を示しました。

2人組でゲームをしてから、「どちらがひろいか」を考えました。理由の説明も力を合わせて考えました。

みんなで考えていく中で、最初はわからなかった子も「長方形は正方形の2つ分」「正方形のいくつ分で広さを比べればいい」ということに気付いていきました。正方形に区切った透明シートを提示したので視覚的に分かりやすく理解を促すことができました。



講師の先生からは、「ゲーム性があり、子供たちが集中できていたことがよかった。」「先生と子供のやりとりがたくさんあった。」「教師は誤答をした子の立場に立ち、寄り添い、学びを共有し、学びの変容を促すことが大切。」「問題と答えの間に、たくさんの小さい問いと答えがあるような問題を設定し、意欲的な学びができるようにすることが大切。」というお話をいただきました。今後の本校の研究に生かしていきたいと考えています。

今後の校内研究 研究授業の予定

次回は、11月6日(水)に4年生(習熟度2展開)で研究授業を行います。

☆例年、保護者の皆様の参観もよびかけております。ご都合がつく方は、ぜひご来校ください。☆

研究だより

令和元年11月11日(月)

東久留米市立第十小学校

研究部

研究授業 4年算数「面積のはかき方と表し方」

11月6日(水)に、4年1組で研究授業を行いました。算数「面積のはかき方と表し方」の単元です。しっかり・じっくりの2コースに分かれて習熟度別の授業が行われました。本時のねらいは、「既習の長方形や正方形の面積を求める学習を活用して、長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考え、面積を求めることができる」です。

研究授業では、下の写真にあるようなL字型の図形の面積を求める方法を考えました。図形にマスを書きこみ、その数を数えたり、線を引いて2つに分けたり、大きい長方形から小さい長方形の面積を引いたり、様々な児童の考えが発表されました。

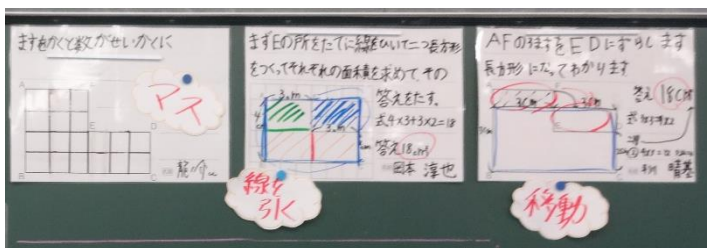
自分の考えをもつための工夫や、友達と交流して考えを広げる工夫、発表をする際に友達の考えを想像しながら聞くための工夫などを取り入れ、活発に友達の考えに触れることができました。

子供たちに身近な「板チョコ」の形をした図形を2種類示し、大きさを比べるという、児童の興味を惹く問題を設定しました。



じっくりコースでは、「ヒントコーナー」を用意し、子供たちが自分の考えをもつ助けとなるための工夫を行いました。

しっかりコースでは、「リレータイム」という時間を設け、発表ボードをもとに友達の考えを想像し、それを他の友達が説明することで理解を深めました。



講師の先生からは、「子供たちにとって身近で興味のある教材を扱う大切さ」や、「言葉でなく、図で説明を示すことのできる算数という教科の特徴」についてお話をいただきました。

また、算数以外の教科にも生かせる授業改善についてのアドバイスもいただくことができました。

今回の授業で今年度の研究授業は最後となりました。成果や課題を振り返って研究のまとめをし、今後の指導に生かしていきたいと考えています。